◎ 第四回　疑問文・疑問詞・助動詞

2023 年 4 月 25 日　平野凜

○ 目次

1. 疑問文の概観
2. 疑問文の作り方と例外
3. 疑問詞
4. 助動詞
5. 五文型との関係性

1. 疑問文の概観

さて、今回は疑問文について考えていきたいと思います。とはいえ、皆さんはすでに様々な疑問文の作り方を中学生のころに習っていると思うので、まずは力試し兼ポイントの確認のために、疑問文以外も含めた英作文をやってもらいましょう。

①

日本語：この教科は重要です。

英語：

②

日本語：この教科は重要ですか。

英語：

③

日本語：どの教科が重要ですか。

英語：

④

日本語：何が重要ですか

英語：

⑤

日本語：なぜこの教科は重要なのですか。

英語：

⑥

日本語：この教科はどうですか。

英語：

⑦

日本語：この教科はどのように重要なのですか。

英語：

⑧

日本語：この教科は重要かもしれない。

英語：

⑨

日本語：この教科は重要かもしれないですか。

英語：

⑩

日本語：なぜこの教科は重要かもしれないのですか。

英語：

⑪

日本語：あなたは野球をする。

英語：

⑫

日本語：あなたは野球をしますか

英語：

⑬

日本語：あなたは何をしますか？

英語：

⑭

日本語：誰が野球をしますか。

英語：

⑮

日本語：彼は何のボールを取りますか。

英語：

⑯

日本語：彼は誰のボールを選びますか。

英語：

⑰

日本語：あなたはいつ野球をしますか。

英語：

⑱

日本語：あなたは野球ができる。

英語：

⑲

日本語：あなたは野球ができますか？

英語：

⑳

日本語：あなたは何ができますか。

英語：

お疲れさまでした。さて、ここまで見てきて、気づいたことはあるでしょうか。わかりますか？そうですね、①～⑩が（　　）動詞に関連した文、⑪～⑳が（　　）動詞に関連した文です。それぞれについて、疑問文の作り方に少しずつ違いがあるということに気づいたでしょうか。次節ではそこについて見ていきます。

2.　疑問文の作り方と例外

　さて、それでは考えていきましょう。前半①～⑩の（　　）動詞の疑問文の特徴を考えてみましょう。疑問文を作るとき、一体どのようなことに気を付けていましたか？
　そうです、（　　）動詞の疑問文を作るとき、基本的には（　　）と（　　）を入れ替える（**倒置**する）のですね。これをいつもの記号に置き換えるとこうなります。

・be 動詞の文構造

平叙文：　S　V　C

↓

疑問文：

　ところが、このルールが適用されないときがあります。それぞれの例文にいつもの記号を付けてみましょう。番号で言えば、③、④、⑨、⑩です。これらの特徴は以下の通りです。

④　：	
⑨、⑩：	

Be 動詞については、これらのときに例外が表れています。

　次に、後半⑪～⑳の（　　）動詞の疑問文について考えましょう。この場合、疑問文を作るときに気を付けるべきことは何でしょうか。
　そうですね、（　　）を使うのですよね。これもいつもの記号に置き換えましょう。

・be 動詞の文構造

平叙文：　S　V　O

↓

疑問文：

ここでもまた例外が現れます。どれかわかりますか？3 パターンあります。

そうですね、⑭～⑯と⑱～⑳ですね。わかったでしょうか。これらの特徴も書き出してみましょう。いったいどういうとらえ方で「例外」としているのでしょうか。

⑭　　：	
⑮、⑯：	
⑱～⑳：	

さて、これでとりあえず疑問文の作り方と例外はわかりました。ではここからは、この例外がいかにして生じるのかを考えていきましょう。

3. 疑問詞（『ロイヤル英文法』pp. 240 ~ 253）

まずは疑問詞について。これは 3 種類あります。

1. **疑問代名詞**（『リード』p. 145）：who which what

意味	さすもの	主格 （～は、～が）	所有格 （～の）	目的格 （～を、～に）
だれ	人			
どれ・どちらの	人・物		×	
何・どの	物		×	

2. **疑問形容詞**（『リード』p. 145）：which what
3. **疑問副詞**　（『リード』p. 153）：when where why how

この三つです。では、それぞれどういった使い分けをすればいいのか？簡単です。こいつらはすべて、そこに入るはずの単語の代わりに置かれたものですから、**位置的にもとの単語の品詞に一致しているはず**だ、ということが分かれば一発です。

つまり疑問形容詞と疑問副詞は、それぞれ疑問代形容詞、疑問代副詞と読み替えてもよいものです。そこに入るはずの名詞／形容詞／副詞の代わりになるものとして、これらを入れてやればよいのです。**逆に言えば、その位置にあるということが、その疑問詞の品詞を決定します。**疑問詞が使われている例文に空欄を設けておいたので、どの疑問詞か考えましょう。

疑問詞はこれでおしまいです。例外の説明が一切なされていませんが、それは最後に収束します。

4. 助動詞（『ロイヤル英文法』pp. 432 ~ 464、『リード』pp. 30 ~ 31）

次は助動詞です。助動詞といえばどのようなものを思い浮かべるでしょうか。思いつくものを書いてみてください。

○ 思いつく助動詞を書いてみよう

では、助動詞はどのように使うと習ったでしょうか。以下のようにまとめてみたので、埋めてみてください。

詞の　　に置き、　　詞は　　形にする。

さて、このとき、気付いてほしいことがあります。be 動詞および一般動詞で助動詞を使い疑問詞を使わない疑問文⑨、⑲と、一般動詞で疑問詞を使わない普通の疑問文⑫を見比べてみてください。**動詞と助動詞および do の位置関係が、全く同じになっていませんか？**

つまりはこういうことです。**一般動詞の疑問文で用いられる do とは、助動詞の一種なのです。**英語は一般動詞で疑問文を作りたいとき、わざわざ助動詞を使うのです。

実はこれ、ヨーロッパの言語としてはかなり特殊な現象なのです。ここからは完全に余談なのですが、例えばドイツ語は、一般動詞だろうが英語の be 動詞にあたる sein 動詞だろうが、疑問文を作るときは主語と動詞の倒置のみで済ませます。ということは、Du liest das Buch.「君はその本を読む。」の疑問文はどうなるでしょうか。書いてみましょう。

こんな感じで、とても簡単なのです。

またフランス語は、疑問文の作り方が 3 種類あります。一つ目は、単純に語尾を上げ、語尾に？をつけるだけ（実は英語も話し言葉ではこれで通じる。教科書では絶対出てこないけど）、二つ目は文頭に Est-ce que ~（英語に直せば、Is it that ~ ?）、語尾に？をつける方法、そして三つめが、ドイツ語と同じように主語と動詞を倒置するやり方です。それぞれカジュアル・普通・お堅い表現という感覚で使い分けられるそうです。よって、Tu lis le livre.「君はその本を読む。」を 3 通りの疑問文に変えるのは容易でしょう。やってみてください。

こんな感じです。別に難しくないでしょう？

閑話休題。ということで英語における助動詞について、少しまとめておきましょう。かなり大雑把に分けると、英語の助動詞には 5 類型あります。

○ 助動詞の五分類（私の勝手な分類）

	時制	人称変化（三単元の S など）	後置する動詞の形	疑問文	例
通常型	現在・過去（例外有）	つけない		主語と倒置	
do 型	現在・過去	つける		主語と倒置	
have to 型	現在・過去	つける		do を用いる	
ought to 型	助動詞ごとに固定	つけない		Ought S toV（例外有）	
be, have 型	現在・過去	つける		主語と倒置	

そう、実は受動態や完了形を作るときに使う be や have は、実は助動詞なのです。そのため、前のページで書いてもらった助動詞の定義は、変更を迫られることとなります。つまりこうです。

詞の　　に置き、

詞は　　形か　　形にする。

5. 五文型との関係性

さて、ここまで見てきて、気づいたことはないでしょうか。まだわからない人は、冒頭の20個の例文にいつもの記号を付けてみてください。

わかりましたか？私が言いたいことはこういうことです。**be 動詞の基本の疑問文以外の例文において、主語→動詞という順番が崩れていない**のです。

一般動詞において疑問文を作るときにdo(es)を使いますが、そうする理由のひとつとしてこのことが考えられます[1]。**できるだけ五文型、そのなかでも主語と動詞の順番を崩したくなかったために、疑問文を作るためにわざわざ助動詞を持ちだすに至ったようです**。しかしdo(es)以外の助動詞を用いるときは、それだけで疑問文を作れるがゆえに、do(es)は必要ないのです（というか、助動詞2つ並べるのは英語的にNG）。これらが⑨、⑩、⑮、⑯、⑱～⑳の例外が発生する理由です。

面倒くさいと思いますか？これは難しいところです。文の構造をできるだけ変化させないという面でいえば、英語の疑問文は単純です。しかしわざわざ平叙文（疑問文でない文）に存在しないものを持ちだすという点では複雑です。ここら辺はトレードオフになってしまうのでしょう。

しかしこういった複雑さは、できるだけ避けたいですよね。わざわざ導入しておいて何を言っているのだという感じですが、しかしできることならdo(es)みたいな余計なものを入れたくないのです。ここで登場するのが例外の④と⑭です。文中に疑問詞を導入すれば、それだけで疑問の意味合いが出ます。だから、**疑問詞を入れた形で五文型が崩れなければ、be 動詞の疑問文でも倒置する必要ないし、一般動詞の疑問文でも do(es)を使う必要がない**のです。

---

[1] 宍戸里佳『他言語と比べてわかる英語のしくみ』ベレ出版、2019、pp.108～110。なおdo(es)が一般動詞の疑問文に使われ始めたのはシェイクスピア（16~17C）より後であり、なぜそうなったのかについてはわからない。このことについて面白い動画があったので紹介する。以下のQRコード参照。